

もっと知りたい国際リニアコライダー

問 ILCの実験では、宇宙の始まりといわれる「ビッグバン」を再現すると聞いたことがあります。爆発したりすることはないの？

答 実験は、電子と陽電子という極めて小さな素粒子を衝突させ、ビッグバン直後の状況を瞬間的に再現するものです。そのエネルギーは、蚊が飛ぶ程度のものであり、爆発するものではありません。

問 ILCで行われる実験は、放射能が発生するなどの心配はないの？

答 ILCは原子力実験や爆発実験を行う施設ではありませんが、施設の稼働に当たっては、安全性に十分配慮した対策がとられることとなります。

問 ILCのトンネルが崩落するなどの危険はないの？

答 実験装置などは、安定した岩盤の中に建設されます。これまでのボーリング調査では、岩盤自体の風化もなく、強固な岩盤であるとの結果が出ており、崩落することはないといわれています。

問 ILC建設による自然破壊はないの？

答 実験装置などは、地下100mほどの深さにトンネルを掘り設置されるので、自然破壊は行われません。トンネルの坑口など、地表に設置される施設もありますが、法律に基づいた調査を行い、環境への影響を抑えるための対策がとられます。

問 ILCが建設されるとどのような利点があるの？

答 世界各国から研究者や技術者、その家族などが居住することになります。また、関連する企業や研究機関の立地なども想定され、その経済効果は非常に大きなものとなります。

ILC研修会を開催しました



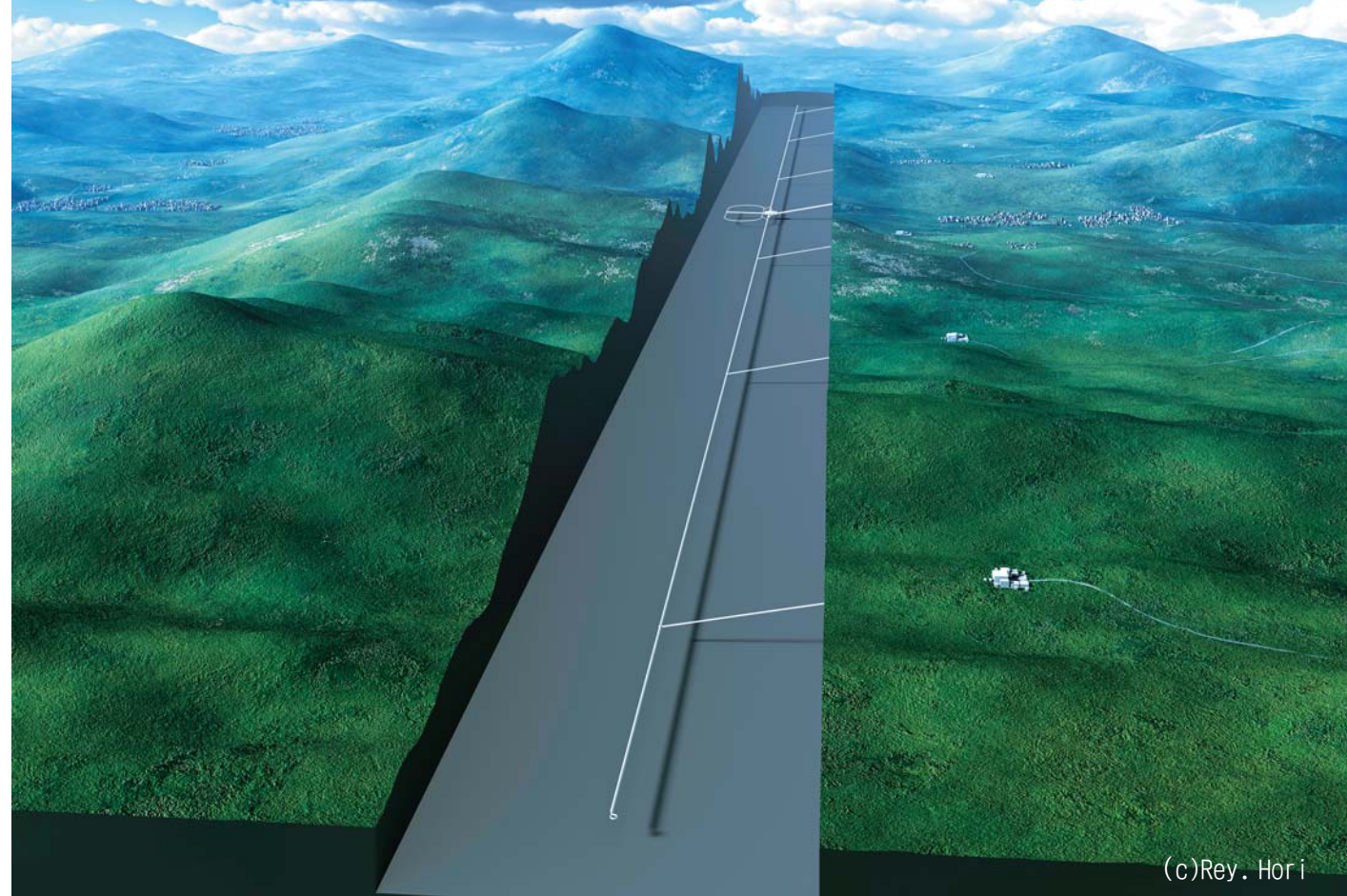
ILCの東北誘致に向けた研修会が6月7日、なはんプラザで開かれました。

花巻商工会議所と市の共催で開催したもので、市民など約70人が参加。県政策推進室の千葉彰ILC推進監が講演を行いました。

千葉推進監は、ILCについて、▷どのような研究をするのか▷誘致に向けたこれまでの取り組み▷東北への波及効果一などを説明。ILCを「震災からの復興の起爆剤」「青少年に大きな夢を与える施設」と語り、誘致活動への協力を呼び掛けました。

参加者からは、環境への影響についての質問が出されるなど、ILCへの理解が深められました。

国際リニアコライダーのイメージ図



(c)Rey. Hor i

世界の最先端科学技術の拠点

国際リニアコライダーを東北に！

「宇宙はどうやってできたのか」「生命はどうやって誕生したのか」。

このような疑問を解明するため、世界に1つだけ建設することが計画されている、世界最先端の研究施設「国際リニアコライダー」。

ここでは、国際リニアコライダーのことや、誘致に向けた取り組みなどを紹介します。

国際リニアコライダーって何？

国際リニアコライダー（ILC）については、テレビや新聞でも報道されており、すでにご存じの方も多いのではないのでしょうか。

リニアコライダーのリニアは「直線」、コライダーは「衝突加速器」の意味で、施設は地下100mほどの深さに全長30kmから50km程度のトンネルを掘り建設されます。

一方の端から電子を、もう一方の端から陽電子を放射して、光の速度まで加速。真空中で正面衝突させ、その瞬間に発生する素粒子などを測定、解析する、素粒子物理学の分野における最先端の研究施設です。

この施設を世界で1カ所建設する計画で、各国の専門家がそこで協力して研究し、「宇宙の起源」や「物質がどのように形成されていったのか」を解明しようとするものです。

施設では精密な実験を行うため、人工的な振動がなく、活断層がないことが建設条件となり、そのためには、堅い岩盤内に建設することが必要といわれています。

世界にはILC建設候補地が複数ありますが、本県の北上山地は世界的にも有力な候補地の一つとなっています。

ILCの誘致に向けて

世界に複数ある候補地のうち日本国内では、本県北上山地の他に、福岡・佐賀両県にまたがる脊振山地が候補地となっています。ことしの夏ごろまでには国内候補地が一本化される予定です。

本県へのILC誘致に向け、そして地元の方々のILCへの理解を深めていただくため、県や市町村、民間主導の協議会など関係機関が一丸となって、ILC講演会の開催や広報、ホームページでの情報提供など、普及啓発・誘致促進活動を行っています。

誘致に当たり必要なのは、地元住民の皆さんの「理解」と「熱意」です。市は今後とも関係機関と連携しながら、誘致に向けた取り組みを進めていきます。

【問い合わせ】

本庁秘書政策課

TEL 24・2111 内線212